

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	50%	自校A B層の割合	65%
令和5年度の成果	自校A B層の割合	43.3%	自校A B層の割合	61%

目標達成に向けた取組			
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
<b>学校全体の取組</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月平均2回の授業研究会を実施し、学びに遅れがみられる生徒を見つける力と支援をする力を養う。</li> <li>・すべての教科において、4人グループ学習を活用した個別最適であり、協働学習を促すプロジェクト型の授業様式を探究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業の終末に身につけて欲しい重点事項の確認を行う。</li> <li>・ミライシード内ドリルパークを家庭学習の課題として毎週5教科取り組ませ、定着を図るためにドリルパークを基にした振り返りテストの実施を各学期2回実施する。</li> <li>・実力試験の実施を2学年年1回、3学年は年3回行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年家庭学習として、週に1度5日分相当のドリルパーク課題を送り、自分のペースで復習課題を中心に組み立てる。3者面談などで学習への取り組みを振り返る。</li> <li>・個に合わせた課題設定を授業で取り組み、続きや足りない部分を家庭で取り組めるように家庭学習を課題として出す。</li> </ul>
<b>特に支援が必要な児童・生徒への手立て</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からないことを周囲の生徒に聞けるよう、物理的な壁を作らせない。</li> <li>・教材から集中が逸れた生徒に対して1分以内に学習と関わりをもたせるように働きかける技術を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に合わせた課題設定を行う。</li> <li>・4人組での学び合い効果を目指し、授業内で適宜指導者が学習に戻す働きかけをする。</li> <li>・BCD層を中心に放課後学習教室を活用し、授業時間外でも個別の支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出からつまづきを見つけ、個に合った支援を行う。</li> <li>・放課後学習教室に参加し、決まった時間に決まった長さの学習に取り組むことで学習習慣を形成することに繋げる。</li> </ul>
<b>成果指標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」肯定的な回答率80%以上であること。</li> <li>・評価評定（学年末）の第3観点の評価がB以上の生徒が70%以上いること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実力試験（第2・3学年）国語・数学・英語において、標準店が50ポイント以上の生徒の割合が40%以上いること。</li> <li>・3つの観点（全学年）学期ごとの評価で第3観点の評価が「C」となる生徒に丁寧な助言を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力調査「授業時間以外の勉強時間」1時間以上の回答率が80%以上であること。</li> <li>・全国学力調査「学習以外での携帯電話やスマートフォン利用時間」3時間以下の回答率が30%以上であること。</li> </ul>